

新規栽培野菜の導入試験

ねらい

三好管内では、”もうかる農業”を目標に、新たな品目に取り組み、販路拡大にチャレンジするグループがあります。こうした団体と連携して、新規野菜の積極的な導入検討を行い、にし阿波ならではの、新たな特産野菜づくりを目指します。

活動地域・対象

地域：三好市・東みよし町

対象：にし阿波ファーマーズ

普及活動の目標

新規栽培野菜の導入促進

目標に向けた活動概要

○試験ほの設置

にし阿波ファーマーズ（5名）に種子を配布し、新規栽培野菜の導入試験を実施しました。検討した品目は、もちもち太郎、赤株大根（紅三太ミニ大根、もみじスティック）、種なしピーマン（タネなっぴー）です。

○巡回指導

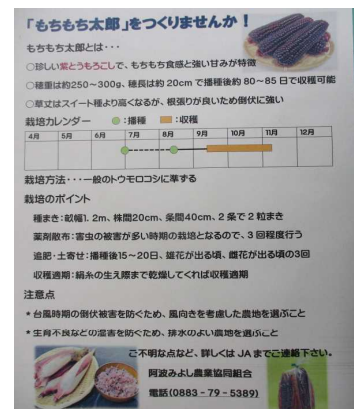
生産者の栽培状況や病害虫の発生状況を把握するために随時巡回し、問題があれば栽培方法や条件の検討を進めました。

○収量・販路の調査

収量や販売先、栽培の難易度や売れ行きについて、生産者に聞き取り調査を実施しました。

○新規栽培者への呼びかけと栽培技術支援

もちもち太郎の栽培用パンフレット作成、技術指導の講習会を実施し、情報の発信を行いました。



<試験野菜>

もちもち太郎紹介パンフレット

- ・もちもち太郎：粒が紫色で、もちもちした食感が特徴のとうきびです。
- ・赤株大根 紅三太ミニ大根：皮が赤くて中は白い、小ぶりの大根です。
もみじスティック：皮だけでなく中まで赤い、小ぶりの大根です。
- ・種なしピーマン タネなっぴー：種がなく、苦みが少ないため食べやすい品種です。



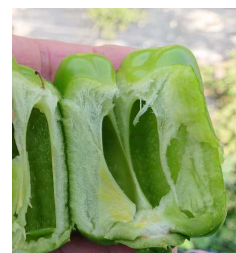
もちもち太郎



紅三太ミニ大根



もみじスティック



タネなっぴー

普及活動の成果

○栽培試験結果

- もちもち太郎 播種：7月下旬 収穫：10月上旬
播種期が梅雨明け前後のため、湿害によって発芽率が低い圃場がありました。
また害虫の多い時期に栽培するため、薬剤散布（3回）が必要です。
- 赤株大根 紅三太ミニ大根 播種：9月上旬 収穫：10月中旬
葉、可食部に害虫被害が見られました。収穫時期にもばらつきがあったため、こまめな圃場巡回で様子を把握しておくことが重要です。
- もみじスティック 播種：9月上旬 収穫：10月下旬
収穫目安が播種後約60日と生育が遅く、紅三太ミニ大根と同じ圃場に播種しても収穫時期にずれがありました。
- 種なしピーマン(タネなっぴー)
播種：2月上旬 定植：5月下旬 収穫：6月中旬～8月
近くで種ありピーマンを栽培している圃場では、受粉して種が入ってしまう例が複数見られました。



もちもち太郎を使った“とうきびご飯”

○マーケティング調査結果

- もちもち太郎 出荷先：産直、食べチョク 価格：300円／1本
テレビで紹介されたこともあり、売れ行きは非常に好調でした。
- 赤カブ大根 出荷先：すきとく市、ホテル祖谷美人 価格：200円／3本入り
小ぶりで家庭用には使いにくいとの声もあり、産直市での売れ行きは伸び悩みました。
ホテル等からの需要は高く、販売先を限定することで継続して栽培できると思われます。
- 種なしピーマン 出荷先：すきとく市 価格：138円／4個入り
知名度が低く種ありピーマンとの差別化できていないことや、種子代が高い、種ありピーマンより実のつきが悪いということが指摘されました。

今後の発展方向

○今回の栽培試験で好評だった「もちもち太郎」については、JA阿波みよしにおいて、推進品目として生産振興することになりました。引き続き、新規導入作物の試験検討と、栽培資料の配布や技術指導を通じて新たな特産野菜のブランド化を積極的に進めます。

関係者からの声

生産者：もちもち太郎は今後も栽培を続けて、生産量を増やしていきたい品目です。
赤株大根について、収穫期にばらつきがあり選びながら収穫するのは大変でしたが、ホテルや飲食店の需要向上を期待して、引き続き検討したいです。
種なしピーマンは確実な種なしにする栽培条件が厳しく、継続は難しいと感じたので、他の品目の導入検討を進めたいです。

三好農業支援センター

連絡先：徳島県三好市池田町マチ2415 tel：0883-76-0691